
すずむし

SUZUMUSHI

Vol. 4 No. 7

1954年 7月



倉敷昆虫同好会

劔山隨錄 (1)

小川大右



山に入つて四日目、
 杖々は2回目の登頂を
 行つた、太陽の出る前
 の山道は牛の背の如く
 柔かい中にも刀強い曲
 線を描き全く澄み切つ
 た青白い空には、西の
 方に大きな白色の満月
 を残してあくまで冷や
 ゃかである。朝日を拝
 しながら寒い朝食を終
 えた後しばらく虫遣の
 姿を現わす迄愉快に過

し、9時頃からそろそろ採集を始めた。
 僕はビーティングネットを持つて消下つた
 所に郡生しているイシツチザケの中を歩いて
 山腹を掃きつた。残りの四人は頂上でネ

ットを振り廻していた。再び僕が頂上に帰つて来た時には4人の外に高松の高松生が数人
 来ていて一緒に採集してて時々下から上つて来るクロヒカゲにまじつてツマジロウラジ
 ヤノメが飛んでくる。これをねらつてネットを振り廻しているものであるが高松の
 人達のやる事は全くすさまじい。とにかく滅茶苦茶に振り廻す。その代りよく採る。シケ
 しあれば切角の美しい個体が破壊されてしまう。矢張り自然を扱う場合には出来るだけ
 自然な行爲をする必要がある。蝶の飛ぶのに合わせてネットを振る様にしたいものだ。

目次

劔山隨錄 (1)	小川大右	(1)
おとしぶみ		(3)
飼育蝶の遅い羽化	広瀬義弟	(3)
モンキアケハを目撃	小野洋	(4)
本会寄贈同好会誌紹介		(4)
通信		(4)
編集後記		(4)

殊に大型のアサギマダラ等はそうである。

この奥秩が同好会の絶代はよろしい。傘敷式とでも云うか鼻に採り方は自給で美しいのだがしかし残念な事は一は高松式の量力の前に完全に秀つた形でサツマリとれない。

口惜しがっているうちに晝も近くなつて来た時、今まで僕の氣になつて仕方のなかつたジロキユー特をこえた向ひの山頂に一人で出かけた。僕は植物の採集もしていたのでこの時は洞乱のみぶらさげて半ばかけ足で息をはずませながら草原を走つていった。

と山頂にはアキアカネが乱舞しツマジロは勿論僕の名も知らぬ蝶々が盛んに飛びその世の虫共が汗になつたシマツの辺りへぞらがのてくる。

まさに昆虫の天国かの様である。附近によく咲いているシコクフーロやコモノギク、ココメツツジ、タカネオトギリ、アザミ等にセーリ、シジミ、アゲハ、ヒヨウモン類が吸蜜している様子は昆虫採集家にとって絶好の採集地であらう。

しかしながら僕はネットを弄つていなかつたので近寄つて来たツマジロを一頓帽子で採つたのみで再び帰路についた。

声をかければ少しばらくして聞える所、雲が出たから降りるぞ”との声を凄然と”おーい”と返事をしたのがもとで一同に先に晝食地小剱神社に降りられてしまつた。ようやく追いついて薪を集めながらの晝食俵りにこの話をすると元気な種中はすぐにも行かんとする意気込み様であつたが濃霧が下から押し上げられ遂に帰路についた。

その日の宿所見の越へ着いても、尚予定の変更してもう一日登頂するか否かで大い議論されたが、結局中止される事になつたのである。同好の士、剱山へ行かぬ節には是非とも一応行つてみられる事をお奨めする。見の越で見た夜の月は全く素晴しかつた。

理化学器械

生物・地学標本模型
昆虫採集用具
テレビ・ラジオ・真空管
テーブ・コーダー



島津製作所岡山県代理店



サ力工商会

倉敷市栄町（米木病院西）
電話 913番

おとしぶみ

飼育蝶の遅い羽化

室内で飼育した蝶は未春羽化すべきものが環境の変化により発育が促進されて晩秋羽化する例が少くない。

私もこのような経過をたどった2種の例を知るので、参考迄に一寸記してみる。

1) ジヤコウアゲハ

1953年9月20日、倉敷市帯江でウマノスズクサの生えている附近の雑草上に静止している老熟幼虫1頭を採集(他には1頭も見られず附近のウマノスズクサにも全然食痕なし)。これを持ち帰り自宅にてウマノスズクサを与えて飼育した結果、9月30日蛹化、約1ヶ月を経て10月29日1年羽化の経過をたどった。羽化した当日はうすうす寒い日であつたが、戸外に放してやると弱々しく飛び去つた。倉敷附近に於ける本種の

☆ 倉敷附近に於ける本種の第3化発生を立証する記録は今迄なかつたと思う。私は昨年(1953)次の如き9月下旬に於ける目撃例を得たので記しておく。

9月22日 岡山市浜にて1頭

9月27日 倉敷市酒津にて1頭

これにより当地に於ける本種の第3化発生は略確實であるが、その発生個体は極めて少数と思われる室内飼育では容易に第3化幼虫を生じる様で、小野洋代により飼育された記録があるので、参考迄に記しておく。

(経過) 11月11日吉備郡真庭町にてエノキ幼虫1頭採集、以後エノキにて飼育、15月11日脱皮、14日蛹化、21日羽化(典型的な斑紋)

発生経過に関しては種々疑問の点が多いが、年間に於ける本種の最後の発生は、9月中旬～10月上旬と思われ、本例は約2ヶ月遅れたわけであるので、さして遅い例とは云えないかも知れない。倉敷に於ける本種の周年経過に関しては、いづれ従来の記録をまとめて発表したいと思つている。

2) コマダラチヨウ

本例は小野洋代の飼育によるもので、まず貴重な資料を譲与せられ、又その発表を御許し下さつた同氏に対して感謝の意を表する次第である。

以下記すのは1948年全代飼育による本種1頭の異常経過の記録である。

9月11日 倉敷市鶴形山にてエノキより幼虫1頭採集、以後エノキにて飼育。

9月25日 脱皮

10月17日 蛹化

10月27日 羽化(豆型斑紋を呈す)大きさはモンシロチヨウ位であつた。

コマダラチヨウは自然状態でも9月に第3化幼虫を生ずることがある[☆]から、室内飼育で9月下旬～10月下旬羽化の記録は一寸異常であり、又例の少ないものと思う。

以上の如き室内飼育によつて蝶の季節的に遅い羽化を生じた例で既に報告されたものは少なく又私も記録をとつていないからここに発表出来ないがこれ以外に11月中旬に羽化したアオスジアゲハとアカタテハの例を知つている。

既往の例で文献で知るものは、クロアゲハ、アオスジアゲハ(吉阪道雄: M. D. K. ニュース No. 29, 1954) オノカアゲハ(岡山縣立鳥根石見地

方産蜂類採集目録 (1952) ホシミスジ(小野幸夫:松本支部報 NO. 33, 1952) アカタテハ, ルリタテハ(岡野義治:駿河の昆虫NO. 5, 1954) 等でいづれもアゲハチヨウ科とタテハチヨウ科に限られることは、発生経過の関係もあるうが、興味深いことと思われる。

No. 296

(広瀬美躬)

モンキアゲハを目撃

1954年6月13日、豊後市の北部丘陵福山の頂上で休息していた際、突如北方より勢よくモンキアゲハが飛来、ネットを手にしたが時既に遅く採集は出来なかつたが一応目撃例として報告しておく。現在迄に当地方では6月に於ける記録はあまりない No. 297

(小野 洋)

本会寄贈 同好会誌紹介

先程ずのしりと重い郵便物が本会に届いた。南宇和昆虫同好会からの会誌の御寄贈で主内容は次の通り。

○南宇和昆虫同好会会報 VOL. 2 NO. 1 (1953) (活版印刷44頁)

- 駒井 卓:自然研究の若人に、
- 奥村禎一:飼育と野外観察、
- 中根猛彦:虫やの虫とり、
- 磐瀬太郎:イチモンジセセリの渡り、
- 安松京三:ルビーロウムシの自然死、
- 伊藤猛夫:白蛾について、
- 森川国康:昆虫の越冬体制の生理と尸体
- 大橋義志夫:直翅目昆虫の白血球とメルオ

キシターセ反産

奥村禎一:四国・南伊豫とその隣接地方の蜻蛉類

岩田久吉:カニムシの第二世代

小林 尚;オランダイチゴ上に棲息する *Halictus* sp. の分類について。

中山二郎:南宇和郡に於ける三化蛾虫防除について

矢野昭三:コバネイチゴとハネナカイナゴの生態

○南宇和昆虫同好会会報 別冊NO. 1 (1952)(とう寫) 別冊NO. 2(1952)(とう寫)

○速報 第1号(1953)(とう寫)

いづれも農業昆虫学関係の貴重な報文、記事が多い。

(編集部)

通信

石原 保先生:「すずむし」御恩送に興り有難く厚く御礼申し上げます。道後山のたし雪が出ているのでなつかしく拜見しました。小生七月三、四日道後山に採集に参りかなり多数の珍種を獲ました。蝶には早すぎましたが同山にはアサマイチモンジゴイチモンジより多い率を知りました。

一筆御礼のみ申し上げます。 草々

七月九日

~~編集記~~ ようやく変則的な梅雨もあけて本格的な夏になりました。皆様御元気で御活躍の事と申します。ところで最近投稿者が非常に少なくなっています。おとしぶみ。等はその意義を失う事になりますので遠方の方も近くの方もどしどし原稿をお寄せ下さい。おまちしています。

すずむし 第4巻 第7号 昭和29年 7月31日印刷
昭和29年 7月31日発行

編集兼 倉敷市住吉町 岡山大学農業生物研究所
発行 者 害虫学研究室内

倉敷昆虫同好會